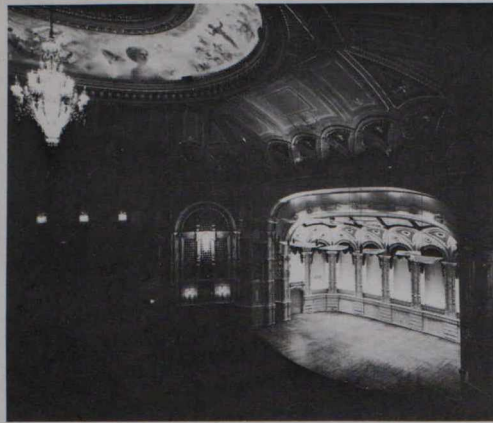


# トピックス

## なつかしのオーフィアム劇場 コンサート・ホールとして再登場

かつて若きチャペリー・チャブリンやマークス・ブラザース、ベニー・フィールズなどの寄席芸人が興行し、のちには映画の封切館、そしてバンクーバー交響楽団の演奏ホールとして利用されてきた由緒あるオーフィアム劇場（バンクーバー）が、このほど五年の歳月と七百万ドルの費用をかけて修繕され、秋山和慶氏を常任指揮者とするバンクーバー交響楽団の新しいコンサート・ホールとして再登場した。



表紙の写真 建国わずか百年というカナダは、文化的にそれほど評価されていない。しかしながら、歴史的、あるいは地理的な制約にもかかわらず、カナダが文化国家としての態様が着実に整えてきたのも事実である。今号は、文化政策をはじめとして、カナダの文化的発展の軌跡と展望を特集した。

オーフィアム劇場は、一九二七年、マール・カス・プリテカの設計により建てられたロココ風の建物で、数々のアーチやつげ柱（壁の一部を張り出して作った柱）、アーチ形の天井、壮大なつづれ織壁掛、百個のシャンデリアなどをほどこした、当時としては世界でも有数の豪華なもの。収容能力二千七百八十八人で、カナダ最大の劇場でもあった。

バンクーバー交響楽団は一九三〇年以

来、ストラビンスキーやジャック・ペニーなどの指揮により、オーフィアム劇場で演奏してきた。しかし一九五九年にクイーン・エリザベス劇場が完成すると、そこに移動し、「オーフィアム保存キャンペーン」をしながら公演を続けていた。

## 二十五周年のストラトフォード劇場 シェイクスピア劇を記念公演

シェイクスピア劇で世界的に有名なオンタリオ州のストラトフォード祝祭劇場が、今年で創立二十五周年を迎えた。一九五三年七月、シェイクスピア生誕の地ストラトフォードを冠してオーブンした祝祭劇場は、初興行以来、サー・アレック・ギネス主演の「リチャード三世」や「終りよければすべてよし」などで大成功を収め、毎年北アメリカ全土からファンが詰めかけている。

祝祭劇場では、二十五周年記念公演として、「リチャード三世」「終りよければ……」「ロメオとジュリエット」「真夏の夜の夢」お気に召すまま」「世の習い」などを組んでいる。

## 「日本美術」が座談会 「カナダ美術の現況」

「日本美術」七月号は、「横へ広がるモザイク——カナダ美術の現況」と題する座談会を掲載している。今年の五月、三週間にわたってカナダの美術視察旅行を行った井関正昭（国際交流基金事業部）、三木多聞（東京近代美術館）、山本進（フジテレビギャラリー）、米倉守（朝日新聞社学芸部）、中野中（日本美術）の各氏（美術評論家林紀一郎氏は欠席）によるこの座談会は、カナダ・カウンスル

（カナダ文化交流協会）やアート・バンクの役割、カナダの芸術的風土や傾向、美術活動の現況などを、詳しく取上げている。

## 世界青少年オーケストラ NHKホールで演奏会（八月）

世界的な青少年音楽組織ジュネスマ・ミュージカルの演奏会が、八月二十八日、午後三時からNHKホールで行われる。青少年音楽日本連合とNHKの共催で開かれる、このジュネスマ・ミュージカル・ワールド・オーケストラには、世界十九カ国の青少年が参加（カナダから八人）する予定。同ワールド・オーケストラは、カナダのジル・ルフェールが一九七〇年に創設したもので、毎年、新しいメンバーによる演奏会を世界各地で開催している。

## 「カナダ研究会」が発足 講演や研究発表会を計画

日本におけるカナダ研究者の組織がこのほど発足した。これは、これまで個別に行われていた日本でのカナダ研究を、有機的、協同的に進めていこうという趣旨で、全国各地の人文・社会科学分野の研究者有志が集まって設立した。名称は「カナダ研究会（Association for Canadian Studies）」。

世話人には津田塾大学の馬場伸也教授が選出された。

同研究会としては、まず他のカナダ研究者にも入会を呼びかけ、文献の所在調査を行ない、ニュース・レターによってカナダ研究のための情報を交換する計画。秋にはカナダ人学者による講演や日本人

研究者による研究発表会を予定している。入会については、馬場教授（東京都小平市津田町一四九一 津田塾大学国際関係学科）へ問合せ、または申込みされたし。

## カナダ留学生を募集

カナダ外務省は、このほど、日本人を対象とする一九七八—七九年度の留学生募集要項を発表した。応募資格は、芸術、人文学、社会科学、物理学、生物学、工学のいずれかの分野で勉強・研究を続けたいとする大学卒（芸術専攻の場合は大学卒と同等の能力を有する者）、または博士号取得者（芸術家の場合には多年の実績による）。前者に対しては月額三百七十五ドルの奨学金のほか、授業料支度金三百ドルと往復旅費、後者に対しては月額六百五十ドルの研究費のほか、支度金三百ドルと往復旅費が支給される。

選考は書類審査（一次）と面接（二次）による。応募希望者は、カナダ大使館文化情報部から応募用紙を取り寄せ、九月三〇日までに提出すること。

お願い

カナダ大使館の図書館では、これまで刊行された日本語によるカナダに関する本や主要論文、雑誌特集、およびカナダ人による著作の翻訳書などのリストを作成しています。お心当りのある方は、タイトル、著者、出版社、雑誌名、発行年月日などを添えて、ご一報いただければ幸いです。特に、図書館や出版関係者の方々のご協力をお願いします。